

平成22年度 琵琶湖環境部環境政策課 組織目標 年度末評価

目標項目	平成22年度の目標 (目標値)	目標達成にむけての実施方針・スケジュール	事業の進捗状況	評価(成果と課題)	年度末達成見込	目標達成が困難と見込まれる場合の原因	23年度の展開・対応
持続可能な滋賀社会づくりのモデル形成 目標像 持続可能な滋賀社会づくりにむけた取組が様々な主体によって実践されている。	地域モデルの構築(持続可能な滋賀の地域社会応援プロジェクト) ・モデル市町 4市町 ・地域環境整備(移動手段の転換)のモデル市町2市町	持続可能な滋賀の地域社会応援プロジェクトにより市町の取組を支援 ・新たなモデル市町の公募・決定 ・アクションプランの策定を支援 ・プランに基づく事業実施を支援 ・別途、地域環境整備(移動手段の転換)を支援 ・HPで市町の取組を紹介	・応援プロジェクトのモデル市町として、新たに高島市を選定し、東近江市、草津市を含めた3市を支援 ・地域環境整備(移動手段の転換)のモデル市町として草津市、多賀町を選定し支援 ・「持続可能な滋賀の地域社会応援プロジェクト中間報告会」を開催し、情報交換を実施	・持続可能な滋賀の地域社会応援プロジェクトのモデル市町として、当初、4市町を選定する予定であったが、3市町にとどまった。			・地域環境整備(移動手段の転換)のモデル市町を募集・選定して支援するとともに、県内市町との情報共有を図り、優良事例の普及に努める。
環境学習推進計画の改定 目標像 環境学習推進計画にそって様々な取組が展開され、持続可能な社会づくりに向けて主体的に行動できる人材が育成されている。	年度内に新たな環境学習推進計画を策定する。	・県民意見の募集 ・環境審議会(環境企画部会)へ諮問・答申 ・県民政策コメントの実施	・23年1月に環境審議会から答申を受けた後、1~2月に県民政策コメントの実施を経て、計画を改定した。	滋賀県環境学習推進計画(第2次)として計画を改定した。改定版では、新たに環境学習の重点的な取組方向を示した。			・推進計画の進行管理の一環として、環境学習推進会議(庁内会議)において、県実施の環境学習関連事業の評価をとりまとめるとともに、様々な主体の取組情報を収集しとりまとめて公表する。
琵琶湖環境科学研究センター、琵琶湖博物館、県立大学等の統合研究の推進 目標像 琵琶湖環境科学研究センター、琵琶湖博物館、県立大学等が統合研究を推進している。	・3機関により統合研究の推進のための会議を策定 ・3つのテーマで統合研究に着手	・統合研究推進会議の開催(2回)および課題別研究チームの開催(随時) ・3機関が作成するそれぞれの基本計画等に「統合研究の推進」を明記	・6月に琵琶湖統合研究推進会議を設置し、統合研究の進め方等について協議した。 ・3月に同会議幹事会を開催し3つのテーマに関する進捗状況について意見交換した。	・統合研究を推進するための体制が整い、琵琶湖センターでは中期計画に、琵琶湖博物館では中長期基本計画に、県立大学では年度計画に統合研究の推進が位置づけられた。 ・3つのテーマに関して予算が確保され、本格的に実施される段階となった。			・3つのテーマごとにタスクチームを編成し、研究の進め方等を協議しながら統合研究を推進する。
職員の意欲を能力につなげる研修の充実 目標像 職員の意欲が能力の向上につながるよう、充実した研修を実施している。	・新任研修の実施 ・環境担当実務研修の実施	・新任研修 5/11 ・環境担当実務研修 22年5月~23年1月	・新任研修 5月11日開催 60名参加 ・環境担当実務研修 研修 4回実施 延べ77人参加 湖上訓練 4回実施 延べ16人参加 水質事故訓練 2回実施 延べ25人参加	ほぼ予定どおり実施。 多くの職員の参加を得、知識の修得・技術の向上に資した。			今年度と同様に実施予定 ・新任研修 5月予定 ・環境担当実務研修 年間を通じ随時実施

- ・年度末時点の進捗状況は、目標値毎に3月末現在の状況を把握して記入してください。
- ・年度末の達成見込みについては、レビュー時点での状況により、達成可能、概ね達成できる(80%以上)見込み、達成がやや困難、×達成は困難に分類・評価してください。
- ・達成見込みで、達成がやや困難()、達成が困難(×)の場合は達成が困難と見込まれる原因を記入し、それを踏まえた今後の対応方針を記入ください。